



ルームメイトのイリス(左)と

「他人が自分と違うこと」にも「自分分が他人と違うこと」にもとても寛容になっただと思う。

も難しいことだろう。それでも私たちは皆同年代で、勉強や将来や恋に悩む高校生というあたりは全く同じである。UWCで共に二年間を過ごすなかで、異質な存在だった「外国人」が自分の友達となり、「外国」が友達の故郷になった。

すると世界全体が自分の故郷のような、身近で大切なものになってきた。この世界に対する垣根のなさは、「国際感覚」という一言では表しきれない、一〇代のころだからこそ身に付けられたものだと思う。

とはいえ、六〇カ国から来た学生と一緒に生活するのは、簡単なことではない。多感な時期をまさに「人種のるつぼ」のような環境で過ごすことで、

人種、国籍、宗教、文化など、あらゆる点でバックグラウンドが異なる人と友達になるには、個性や違いを認め合うこと、そしてそのためにまず自分の個性を尊重することが大事である。そんなことを二年間でたたき込まれたせいか、「タテ社会」とか「ヨコ並び」など、日本の社会を息苦しくしていることから、少しだけ自由になれたように思う。

UWCの卒業生たちは皆、驚くほどバラエティーに富んだ道を歩んでいるが、共通しているのは、自分で未来を切り開く力があり、国境を意識せずに、ともかく自由に活躍していることだと思う。そんな方々が国内外のフィールドで異彩を放ちながら活躍することで、どんな場所でも周囲に刺激を与え、新しい価値を生み出す原動力になる存在になっているのではないか。

### ❖ 答えのない問題に向き合う現在

私自身はといえばUWCを卒業後、大学と大学院で都市計画を勉強し、現在は建設会社で都市開発の計画に携わっている。英国の美しい街並みや活き活きとした公共空間を見て、日本の街ももっと良くなるはずだと思ったのが、この道に進んだきっかけである。大学院時代には、日本にもたくさんの美しく心豊かな

なる空間があることに気づき、それを守り育てる方々にも出会った。

都市は、その街の文化や時代の意識など無形のもので、時の流れとともに積み重ねられて形となっている。UWCでの歴史の授業を思い出し、この素敵な空間は、どのようにしてここに存在しているのか」を読み解くことに夢中になった。都市をつくる仕事に就いた今は、自分の経験を少しでも社会に還元できればと、「よりよい都市空間を生み出すには、何ができるか」を考えながら、答えのない問題に向き合っている。

今自分が、しっかりと自分の足で人生を歩んでいけるのは、経団連および会員企業からご支援を賜り、UWC留学という何ものにも代えがたい経験をさせていただいたおかげである。これまでなかなか、私の気持ちをお伝えする機会がなかったもので、この場をお借りし、心からの感謝の気持ちを申しあげたい。

また、「日本の学校をやめて留学したい！」と突拍子もないことを言う高校生の娘を、快く送り出し応援してくれた家族にも、とても感謝している。多くの方に支えられて留学したUWC卒業生の一員として、自分の仕事を通じ、社会に貢献していくことで、ご支援いただいた皆様に恩返しをしていきたい。

# UWCで学んだ大切なこと

竹中工務店開発計画本部

奥田 絢子

おくだ ひろこ



一九九九年一〇〇一年UWCアトランティック・カレッジ(英国)留学。〇六年慶應義塾大学環境情報学部卒業。〇八年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修了。〇八年竹中工務店入社。一年民間都市開発推進機構出向。一二年から現職。

## 👉 キューバ危機はなぜ起きたのか、説明しなさい

UWCでの歴史のテストは、こんな感じだった。教科書に答えがないどころか教科書と呼べる本はない。配布された本を読み比べると、全く違う理由が書いてある。どの本の記述が正しいかは問題ではなく、異なる部分をヒントに、真実が何であったのかを自ら考えていくのが、歴史の授業だった。「本はまず著者の経歴から読むんだ」という先生の教えは、今でも染み付いている。著者が資本主義者か共産主義者か、保守かリベラルか、そこ

には真実に近づく最大のヒントがあるからだ。周囲の友達と比べると、英語を読むのに何倍も時間のかかった私は、資料を読み比べて小論文一つ書くのに何日も眠れぬ夜を過ごした。頭を使いすぎて一晩にスニッカーズを七本も食べたことは、今でも忘れられない思い出だ。それでも自らの力で歴史を解き明かしていく作業に強く引かれ、とにかく楽しかったのを覚えている。

一番熱中した歴史の授業だが、記憶力の悪い私は、正直内容はほとんど覚えていない。ただ、さまざまなテーマについて小論文を書き、ディスカッションするなかで、「真実は

● ユナイテッド・ワールド・カレッジ(UWC)日本協会

UWCは、世界各国から選抜された高校生を受け入れ、教育を通じてグローバル人材を養成する国際的な民間教育機関(本部 ロンドン)。UWC日本協会は、UWC活動を日本で普及させるため、経団連の全面的支援のもとに設立され、UWCに派遣する高校生の選考や奨学金の支給等を行っている。奨学金は、UWCの趣旨に賛同する経団連主要会員企業等からの寄附金を原資としており、企業の社会貢献活動として、UWC日本協会へのご入会を検討いただきたくお願い申しあげます。

本や人の数だけある」「大切なのは答えの暗記ではなく、なぜそれが起き、どのような結果を招いたのか、自らの力で答えに至る」とだとの感覚を身に付けられたことが、今の自分の基礎になっている。

## 👉 「人種のるつぼ」のなかで認め合う気持ち

一方で、これだけは真実だと確信したこともある。それは、「人種も国籍も宗教も関係なく、人は皆心を通わせ、友達になれる存在である」ということだ。インド人とパキスタン人が親友で、イスラエル人とパレスチナ人が仲良くテーブルを囲む姿は、UWCでは普通の光景だったが、お互いの国に戻ればとて